207mm

院の医師の多くが埼玉医大で育てられ、そこで長年勤務させていただきました。心から感謝申し上げます。現在、神経内科、循環器内科、腎臓内科、救急救命センター、呼吸器外科等の先生方が当院に派遣医師として来てくださっております。また麻酔科の長坂浩教授にはひとかたならぬご助力をいただいております。厚く感謝いたします。

設立当初から建築にあたってくださった株式会社中里建設と中学時代からの友人である同社社長の中里昱夫さん、中里建設の田幡監督には毎回苦労掛けお世話になってきた。感謝です。中里建設の下請け会社の各位にも感謝したい。前回と今回の増改築時に設計管理を担当し、皆様に感動を与えることができる建物を設計してくださったメドックス設計事務所と中田社長、実務担当原山さんに感謝したい。

先に述べた3つの特養とそれぞれの理事長並びに施設長各位、職員各位に感謝したい。病院に隣接する老人介護施設あずみ苑は配置医としてまた、個人的には、母のショートステイ先としてお世話になってきた。学校医としての活動の場を提供してくださっている東京農業大学第三高等学校並びに中学校に感謝したい。農大三校にあっては、工事期間中、当院駐車場が足りなくなった時、学校職員の駐車スペースを割愛して下さった。産業医としておつきあいさせて下さっている株式会社正木製作所と正木社長並びに株式会社電成興業と工場長丹沢様に感謝したい。埼玉医大からの臨床研修医や学生に、産業医活動を学ぶ場としても協力していただいた。加島会計事務所と加島所長、小林社会保険事務所と小林所長にも設立当初からご指導ご支援いただき感謝したい。埼玉りそな銀行には当初から快く側面支援をいただいた。特に、設立時、手持ち資金がほとんどない私を支援してくださった吉野重彦元頭取に感謝したい。医院設立時、備品購入のために、遠く宮崎まで私と一緒に行ってくださった日新器械の楠木社長に感謝したい。また、クローバー薬局の小黒社長、ならびに職員の皆様には近在の院外薬局として様々にご協力いただいた。感謝申し上げます。

無償で奉仕して下さっているボランティアの方々に感謝したい。霊的ケアを側面から支援してくださった日曜日のシャローム集会とそこに集う一人一人に感謝したい。

近隣の皆様には日頃当病院を利用して下さっているばかりか、工事中の騒音などでご迷惑をおかけしたが快く許していただいた。この場を借りて感謝したい。

この地に建築ができたのは、地主の皆様が土地を譲って下さったからである。竹間様、二人の深沢様、横市様、石田様、清水様に感謝したい。

繰り返しになるが、設立当初に建設協力委員会を立ち上げ、シャローム債を募ってくださった日本ホーリネス教団坂戸キリスト教会の牧師（前任者村上宣道様、現牧師郷家一二三様）とそこに集う皆様、建設協力委員に名を連ねた方々、実際にシャローム債で協力してくださった270名近い友人、知人の方々に感謝したい。

病院との取引のある業者の皆様、機関、施設はこのほかにも多数ある。名が載らない方や施設が出てしまうことを恐れる。いずれにしてもシャロームは、それだけ多くの方々、施設、機関によって支援指導されここまで来ることができたのである。患者さんも我々を支援してくださった方々である。患者さんの中には小学、中学、高校時代の同級生、同窓生、恩師たちも少なくない。そうした方々に感謝したい。

法人理事、監事各位に感謝したい。ほとんどの方が設立当初からのメンバーである。その中でも、大岡さん、小池さんは当初の協力委員会の委員としても貢献してくれた。また、国分さん、小川さんはH6の医院建設時、自宅を担保として協力してくれた。

つらいこともたくさんあったにも係らず歯を食いしばってがんばってくれた職員一人一人に感謝の意を表したい。本当は、皆さんに真っ先に“ご苦労様、ありがとう”と声をかけるべきものと思っています。皆さんの日頃の懸命な努力、献身的な勤務によってシャロームが支えられています。皆様に心から感謝します。殊に目立たない、裏方で働いてくれている方々に感謝したい。

そして本当の最後に。妻には、私が多忙なゆえに色々な苦労を掛けております。心から感謝しています。
ありがとうございました。

210mm

シャローム通信とは…？

開院当時に発行されていた広報誌です。しばらくおやすみをいただいておりましたが、今回復刊の運びとなりました。次回より、Dr.の紹介、各部署の特集、寄稿、行事の記録などなどを予定しておりますので、どうぞお楽しみに！

医療法人社団シャローム　理事紹介

理事長　鋤柄　稔（医療法人社団シャローム　シャローム病院　院長）
理　事　大岡　俊雄（社会福祉法人　シャローム埼玉　理事長・評議員）
理　事　小川　敏夫（有限会社　小川工業　代表取締役）
理　事　金子　忠（医療法人社団シャローム　シャローム病院　事務長）
理　事　國分　恵子（主婦）
理　事　糸川　かおり（シャロームにっさい医院　院長）
監　事　小池　淳一（デイサービス　はばたき　所長）

医療法人社団シャローム　常勤医師紹介

院長　鋤柄　稔（すぎがら　みのる）
診療：内科、外科
●日本消化器病学会　認定専門医
●日本消化器内視鏡学会　認定指導医
●日本消化器外科学会　認定指導医
●日本肝臓学会　認定専門医
●日本超音波学会認定　専門医、麻酔標榜医
●日本外科学会　認定専門医

副院長　外来診療部長
狩野　契（かのう　けい）
診療：内科、外科
●日本外科学会専門医

病棟診療部長
加藤　修一（かとう　しゅういち）
診療：内科、緩和ケア内科
●日本緩和医療学会　暫定指導医
●日本内科学会　認定内科医
●日本神経学会　専門医・指導医

外科部長　手術室長
小澤　修太郎（おざわ　しゅうたろう）
診療：内科、外科
●日本外科学会　外科専門医・指導医
●日本消化器外科学会　専門医・指導医
●消化器がん外科治療　認定医

シャロームにっさい医院
院長　糸川　かおり（いとかわ　かおり）
診療：内科、神経内科
●総合内科専門医
●神経内科専門医
●老年病専門医

皮膚科部長　江田　二葉（えだ　ふたば）
診療：皮膚科
●日本皮膚科学会　認定皮膚科専門医

乳腺部長　藤内　伸子（ふじうち　のぶこ）
診療：内科、乳がん検診
●日本外科学会　外科専門医・指導医
●日本乳癌学会　認定医・乳腺専門医
●マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
検診マンモグラフィ読影認定医

H27より常勤予定
（平成25年12月より非常勤開始）
中村　小百合（なかむら　さゆり）
診療：小児科
●小児科専門医、PALSプロバイダー

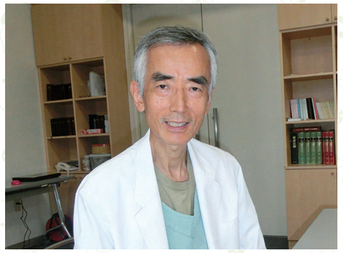
表紙210mm

297mm

シャローム通信

復刊第一号
2013.10.19 発行
〒355-0005
埼玉県東松山市大字松山1496
医療法人社団シャローム

～シャローム病院スタートにあたって～



医療法人社団シャローム
理事長　鋤柄　稔

はじめに

シャローム鋤柄医院（シャロームとはヘブライ語で“平安”を意味する）は、増床が許可され緩和ケア病棟を含む病院になった。ここにいたるまでに多くの方々、多くの機関のお世話になり、ご指導ご鞭撻、お祈りをいただいた。拡充の恵みにあずかれるのは一重に神の憐れみ、支援してくださった皆様のおかげであり、感謝の思いで一杯である。殊に、医院設立前、設立後に、ホスピスのために無利子、無担保での病院債（シャローム債）や献金でもって支えてくださった皆様には、その支援にようやく応えられることができそうでほっとしている。長い間中断していたシャローム通信も今回復活することになった。この機会に、平成6年からの歩み、これからの課題などについて一言のべさせていただきたい。

（Ⅰ）増床許可経緯

さて今回、シャロームは、全室個室の55床の病院として許可された。緩和ケア病棟設置は、開院当初から念願だったが、半ばあきらめていた。県の医療整備課には複数回、足を運んだが許可されることは無かった。平成18年に、19床全室個室の診療所とした。個室の提供は、いわゆる緩和ケア病棟を持てない診療所であってもできるだけの療養環境を提供したかったからである。今回30床の緩和ケア病床が許可された。緩和ケアを除く25床は一般病床である。一般病床25のうち2床は救急のため、7床は在宅患者用のベッドとして許可されたものである。

増床が許可された最大の理由は、数年前に比企医療圏が川越医療圏と統合され、対人口比で病院のベッド数が足りなくなったことによる。ベッド数増床の可能性を知らせてくれたのは、前東松山保健所長の田邉博義さんであった。心から感謝したい。がん対策基本法や救急医療や在宅療養の充実が叫ばれる中での増床許可であった。

（Ⅱ）緩和ケア病棟

緩和ケア30床は、緩和ケア病棟としては埼玉県では最も多いベッド数である。全国的にみても30床以上の緩和ケア病棟は数少ない。そういう意味では、期待と責任の重さを感じる。緩和ケア病棟は2階と3階を併せて成り立っている。2階は談話室を含んだ全病室、3階には家族宿泊室、チャプレン室、ボランティア室、ホスピス患者専用のリハ室、会議室、研修室などを設けた。

ホスピス専用のリハ室を設けてあるのは、全国的にみても数少ない。われわれが、ホスピス専用のリハ室を設けたのは、緩和ケアを必要とする方にもリハビリが有益であることを経験してきたからである。リハビリによって、ADL（※1）が改善されて、自宅へ帰るなどの希望を見いだす方がいるのである。

緩和ケア病棟30床のうち、3床には透析用配管が設置された。当院には透析症例でがんを患う方も少なくない。そうした方には緩和ケア病棟（個室病棟）で（透析室に移動せずに）透析治療を提供しようとするものである。透析用ベッドを具備した緩和ケア